

興味があり、学部時代は薬学部を選びました。その後、修士課程では分子生物学を専攻し、総研大博士課程では加藤晃一先生の構造生物学を主体とする研究室の門を叩きました。ずっと違う分野を選択し、色々な経験をすることで、様々な立場から神秘的な生命現象の分子基

盤を解読することが出来るようになってきました。それは幸運以外の何者でもないと思っています。これからも、自分が面白いと思う研究を楽しみたいです。

この度は、伝統ある日本生化学会で賞を頂き、光栄で大変うれしく思っています。この賞を頂けたのは、日頃

研究を支えて頂いている加藤晃一教授、山口拓実助教、矢木真穂特任助教をはじめ研究室のメンバー、名市大・佐藤匡史准教授、矢木宏和講師ら共同研究者の皆様のおかげです。心から感謝を申し上げます。

## 伊東 貴宏 (物理科学研究科 構造分子科学専攻 5年一貫制博士課程3年) 錯体化学会第64回討論会でポスター賞及びCrystEngComm Poster Prize

2014年9月18日~20日の3日間にわたって開催された錯体化学会第64回討論会において、「ディスクリートなRh(II)二核錯体ユニットの集積化による配位不飽和サイト内在チャンネルの構築と構造制御」という題目で発表を行い、ポスター賞及びCrystEngComm Poster Prizeを受賞いたしました。本研究は総研大入学当時から継続して行ってきたテーマであり、その成果が今回、受賞という形で認められたことを大変嬉しく思っております。また、私が分子研に来て初めて論文を投稿した雑誌がCrystEngComm誌ということもあり、本受賞には縁のようなもの

を感じております。

分子性の多孔性材料は、ゼオライトなどの無機材料には無いその構造の柔軟性から注目を集めている化合物群です。MOFやPCPといった配位高分子はその代表例ですが、配位結合によって無限構造を構築するこの手法は置換“活性”な錯体にしか応用できないという欠点があります。置換“不活性”な錯体には一般的に触媒活性の高いものが多く、それをユニットとして超分子構造を構築できれば、これまでにない反応場の構築が期待できます。今回の研究ではロジウム二核錯体をユニットに用い、配位結合に頼らず分子間相

右から2番目が筆者



互作用によって集積化させることで反応サイトを残したまま超分子構造を構築することに成功いたしました。今後は孔のサイズが異なる反応場の構築や、得られた反応場の有用性の評価を行っていきたくと考えております。

今回の受賞は偏に正岡重行准教授、近藤美欧助教をはじめとした研究室の皆様方のご支援のおかげと深く感謝しております。この受賞を励みに今後も研究に邁進していきたいと思っております。

### 平成26年度9月総合研究大学院大学修了学生及び学位論文名

専攻	氏名	博士論文名	付記する専攻分野	授与年月日
機能分子科学	Tran Nguyen Lan	Studies on molecular magnetic properties using <i>ab initio</i> quantum chemical methods	理学	H26. 9.29
	久保 雅之	<i>pn</i> -Homojunction Organic Solar Cells	理学 (学位授与論文博士)	H26. 9.29

### 総合研究大学院大学平成26年度(10月入学) 新入生紹介

専攻	氏名	所属	研究テーマ
構造分子科学	白石 龍	光分子科学研究領域	基板上に整列した機能性分子における電子構造の精密解析
	TAO Shanshan	物質分子科学研究領域	Design and Functions of $\pi$ -electronic Porous Polymers
	WANG Ping	物質分子科学研究領域	Design and Functions of Crystalline Porous Polymers
	ZHAI Lipeng	物質分子科学研究領域	Design and Functions of Porous Organic Polymers
	CHINAPANG Pondchanok	生命・錯体分子科学研究領域	Construction of photoreactive non-covalent metal-organic frameworks (MOF)